

# 県内の情報連絡員報告

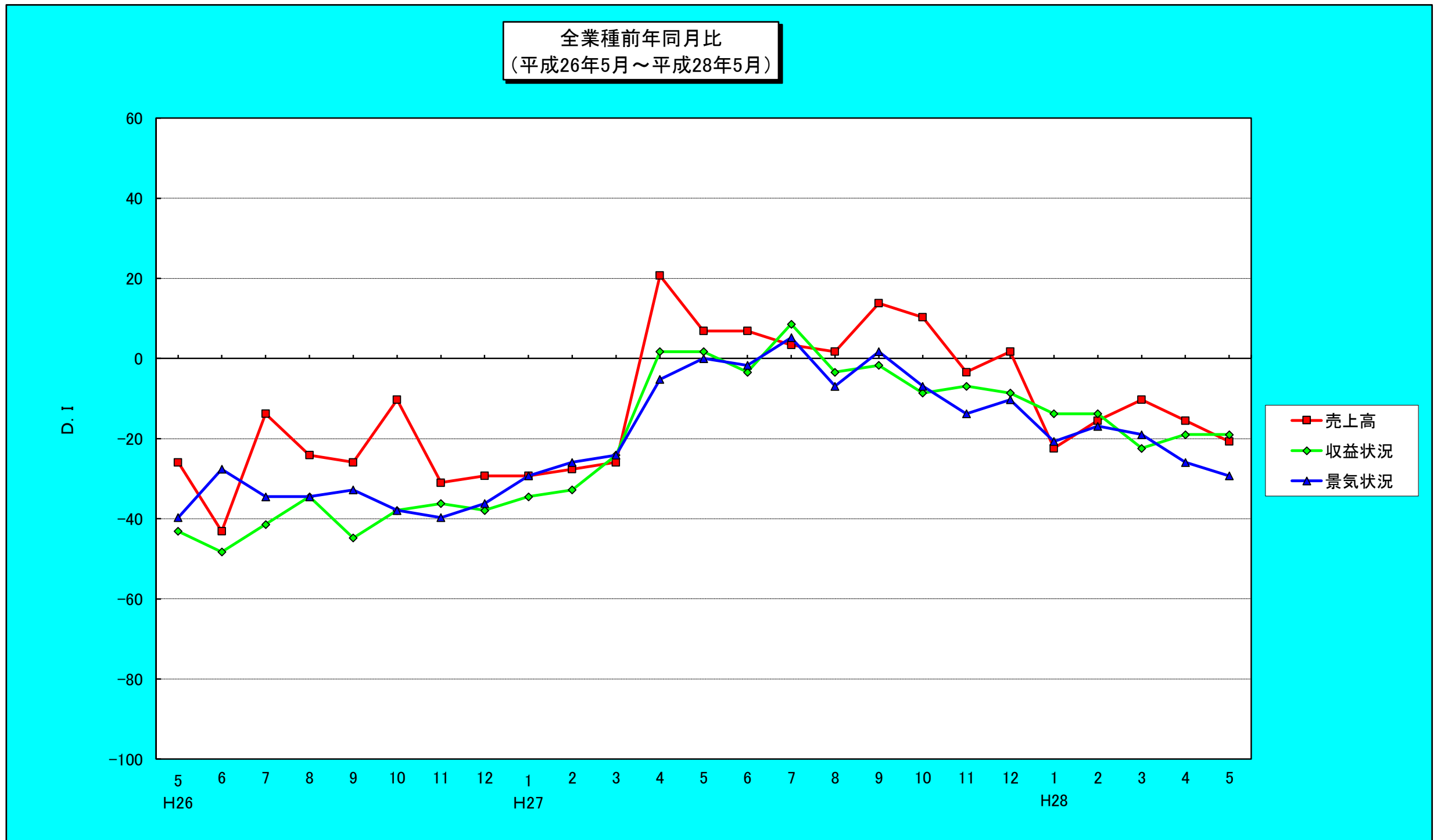
石川県中小企業団体中央会

## ■平成28年5月分

平成28年5月期において

- D I 値で見ると、昨年同月比をもとに前月との増減を比べた場合、2項目が上昇、1項目が横這い、6項目が悪化であった。動きは僅かであり、景気動向は総じて下降気味であるが、製造業と非製造業で傾向が大きく分かれた。
- 製造業においては、7項目が上昇、2項目が悪化で先月から反転し、特に売上高は22.5ポイントの大きな上昇となった。上昇の要因は新幹線開業効果が続いている金箔製造業、繊維機械と工作機械の一部と窯業・土石製品製造業が引き続き好調であることに加え、GWをきっかけに観光客が多く増えたことで、調味料製造業と陶磁器製造業が、住宅着工が増えた木材・木製品製造業が好転したからである。ただ、個人消費の低迷が続く繊維工業、海外経済の停滞から機械金属工業（鉄鋼・金属製品製造業と一般機械器具製造業）は引き続き振るわなかった。また、開業効果で昨年度好調であった菓子製造業では、開業効果に一服感が見られ始めたとの声が聞かれた。
- 非製造業は、1項目が上昇、1項目が横這い、7項目が悪化あった。主要3項目（売上高、収益状況、景況）も二桁の悪化に転じており、今後が懸念される。悪化の要因は、土産物小売業、鮮魚小売業、商店街（近江町）、旅館・ホテル業（加賀、能登）で開業効果にバラツキが見られるようになったこと、入荷が減少した水産物卸売業、新幹線の開通で車での来県が減った燃油小売業が振るわなかったことが考えられる。なお、個人消費の低迷で、全体的に低調な非製造業の中で、早めの合同展示会で積極的な販売に努めた電器製品小売業は売上を伸ばしたようである。
- 新幹線開業効果（2年目）については、全業種では、「薄れている」が55.3%と多く、「持続している」が44.7%であった。全業種ではその差は大きくなかったが、業種別にみると、傾向が分かれた。製造業においては、「持続している」との回答が66.7%と、「薄れている」（33.3%）よりも多かった。「持続している」との回答は、陶磁器製造業、金箔製造業、繊維工業、食料品製造業などであり、その理由は“観光客が継続して多い”、“外国人観光客の増加”であった。「薄れている」との回答は、菓子製造業、漆器製造業、印刷業などであり、その理由は“観光客の減少”、“財布の紐が固くなった”であった。非製造業は、「薄れている」との回答が69.6%と、「持続している」（30.4%）よりも多かった。「薄れている」との回答は、旅館・ホテル業（加賀、能登）、土産物小売業、鮮魚小売業、燃油小売業などで、その理由は“観光客の減少”、“地元客の減少”であった。「持続している」との回答は、商店街、旅館・ホテル業（金沢）、運輸業などで見られ、その理由は“観光客が継続して多い”、“外国人観光客の増加”であった。理由を見ると、同じ業種内で“観光客が継続して多い”と“観光客の減少”が見られているように、今回の調査では製造業・非製造業といった違いではなく、立地や取扱い品目の違いにより、開業効果が分かれてきていることが窺え、今後その傾向が一層強くなることが予想される。

## ◇全業種の前年同月比推移（H26.5～H28.5）



※本調査は、当会に設置している情報連絡員〔中小企業の組合（協同組合、商工組合等）の役職員58名に委嘱〕による調査結果です。調査は、情報連絡員が所属する組合の組合員企業の全体的な景況(前年同月比)です。

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	食料品	調味材料製造業	極端な多忙感はなかったが、出荷額は前月比、前年同月共に上回った。安定的に来県者が続いているのかもしれない。原材料は為替で急反発している。天候同様、ゲリラ的上げ下げが来るのが怖い。消費動向について、消費税のアップが延期され、少しは消費に回ると期待している。
		パン・菓子製造業	売上高、収益状況とも増加した店舗もあれば、減少した店舗もあり、トータルしてみたら不変であるが、新幹線開業景気の一服感を感じている店舗が増えてきているようである。消費動向について、外国人観光客は増えているように感じるが、日本人観光客の伸びはあまり感じられない。コンベンションも減少しつつあるのではないかとと思う。
	繊維工業	織物業 (加賀方面)	円高傾向、原油価格の低下により、織物製造原材料価格は下がっているが、中国経済の不安や中東の財政悪化、国内では少子高齢化の影響等により消費は低価格志向が強く、当産地織物商品は受注が減少しており、厳しい採算性で推移している。 対前年同月比売上減少である。操業が少し低下している。収益状況は変わらない。
		その他の織物業 (染色加工)	売上高に関しては減少傾向に変化はない。収益状況に関しても悪化傾向に変化はない。根本的な景気の回復が実感できなければ、この状況は変わらないと思われる。消費動向に関しても回復の兆しは感じられないため、しばらくはこのままの状態が続くものと思われる。季節的には夏へと向かっていく時期なので、呉服需要は減少傾向にある。業界の状況は、5月も近年続いているマイナス傾向に歯止めがかかっていない状態にあり、対前年同期86%程の生産量となっている。この状態がしばらく続いていくと思われる。昨年開業の北陸新幹線の効果を実感することはできない。
		ねん糸等製造業	売上高及び収益共に悪い。原因は内需不振と主製品の販売低下、開発力不足である。個人消費は低迷している。
		その他の織物業 (織マークの生産・加工)	28年5月度は、昨年度比約20%の売上減少となった。4月、5月は秋冬物の生産で、本来、多忙期であるが、残念ながら大幅な減産となり、28年度の見通しは極めて暗いものとなった。アペノミクスがスタートした24年12月以来、売上減少傾向には歯止めがかからない。物が売れない、仕事がない状況は28年度も続きそうである。
	木材・木製品	製材業、木製品製造業 (加賀方面)	5月度売上は前年度と比較すると、8%増加している。4月度は売上は低下したが、5月の大型連休明けより緩やかな回復基調を見せてきた。5月に入り、個人消費は徐々に上がり傾向を見せている。
		製材業、木製品製造業 (能登方面)	取扱材1,602m <sup>3</sup> (昨年2,082m <sup>3</sup> )、売上高22,125千円(昨年29,561千円)、平均単価13,808円(昨年14,195円)であった。価格は昨年並みで保合相場であるが、原木の入荷が減少している。スギは昨年並みだが、アテ材の価格低迷(元玉)で入荷が減少している。業界の状況は、前年同様の相場を見ても、スギ・アテともほぼ前年と変わらず、住宅着工状況の大きな変動がない限り、この低迷した相場がしばらく続くのではないかと考える。ただ、価格は昨年並みだが、原木の入荷が減少してきている。
		製材業、木製品製造業 (金沢方面)	5月に入り需要状況は悪くない。仕事が入り分散していたため、配分の苦労はせずに済んだようで、ここ当分は順調と言えよう。合板の入荷状況は依然悪い状態が続いており、非常に困っている。
	印刷	印刷業	印刷でも業種によってバラつきがあり、前年同月から見ると売上・収益も下降で先行き不透明感が強い。個人消費は依然低調である。
	窯業・土石製品	砕石製造業	5月の組合取扱い出荷量は対前年同月比、生コン向け出荷は13.2%増、合材用アスファルト向け出荷は8.6%の減となり、特需による出荷量は、前年度は出荷がなく対比できないが、今年5月度全体の2.5%あり、全出荷量では14.4%増加となった。
		陶磁器・同関連 製品製造業	売上高は前年対比約115%と好調であった。収益性に関しても好調であったと思われる。九谷茶碗祭りは風による被害もあったが、金沢を中心に県内に多くの観光客が訪れたことが好転した要因に挙げられる。また、日本全体でも、東京中心部には、多くの国内外の観光客が訪れた。このことがプラス要因であったと考える。個人消費の動向は、売上好調を受けてやや活発な動きがあると考えられる。天候も年の中でも一番穏やかな時期である。多くの観光客を見ることができている。ただ5/3～5/5の九谷茶碗祭りについては、暴風のため、中止となった。5/3の出足が好調だっただけに、本当に残念な結果となった。
		生コンクリート製造業	平成28年5月末日の県内の生コン出荷量は、前年同月比101.4%(組合員外会社を除くと101.6%)となった。各地区の状況は、金沢地区116.9%、鶴来白峰地区147.8%、七尾地区151.5%とプラス値となり、南加賀地区82.6%、羽咋鹿島地区51.4%、能登地区98.2%とマイナス値となった。七尾地区が大幅にプラス値となっているが、中学校建設工事が影響していることに加え、前年度同月の出荷量が少なかったことが影響している。県下生コンクリート出荷量の官需、民需(組合員外会社を含む)の前年同月比は、官公需106.3%、民需98.6%となっている。
		粘土かわら製造業	持家戸建は増税を予測し、駆け込み需要も含め、増加しているものの、各種屋根材との競合が一段と厳しく、出荷は前年比約10%減少した。燃料価格は前年比約20%低下し、やや安心帯となっているが、原料価格の高止まり状況は相変わらずであり、収益圧迫要因となっている。
	鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	業況は低調で、需要の停滞感から受注数が減少し、操業度は低下傾向にある。人手不足や人件費の増加を口にする組合員がいる一方で、金利低下の今、設備投資の声も聞かれる。先行き不安定感が否めない中、更に需要を抑えることとなるであろう消費税引き上げが延期される方針を歓迎したい。
		非鉄金属・同合金圧延業	ゴールデンウィークがあり、観光客が多く訪れ、先月同様、売上が順調に推移している。工芸品については、観光客が順調に推移する中、先月同様増加傾向にあった。業界の状況は、先月同様、観光客が多く訪れ、箔張り体験やお土産等売上が順調であった。
		鉄素形材製造業 (鋳鉄物の製造)	5月度の生産量は対前年94.6%、対前月95.5%と低迷し、収益が悪化しているところが多い。これまで好調であった工作機械向け素材もやや低下傾向になっている。生産量が下げ止まり感がある中、受注単価を維持することで、損益状況が保たれているようである。
		鉄素形材製造業	依然先行きに不安があり、受注が増加する気配も見られない。事業所による受注量の差が大きくなったように思われる。売上高は前年同月とあまり変化はないが、収益状況と共に低調に推移している。
		一般産業用機械・装置製造業	熊本地震復旧のため、耐震部材の生産が既に始まっている。ベアリング主要需要先である、自動車・産業機械・輸出とも依然低調に推移しており、受注はピーク時の2割減水準であり。自動車はVWや三菱・スズキなどの不正問題やトヨタのライン停止などの影響がある。産業機械は建機低迷と工作機械の落ち込みが拍車をかけている。輸出は円高傾向もあるが、中国をはじめとする新興国経済の落ち込みが影響している。
	一般機器	機械、機械器具の製造 又は加工修理	当組合は大きく鉄工業を中心にした企業の団体ではあるが、その具体的な業種は様々で業況も大きな差がある。自動車関連(特に大型バス)の部品加工等の企業は繁忙期が続いており、売上高、収益状況ともに好調である。しかし、中小企業の生産能力には限界があり、受注をこなし切れていないのが現状である。一方では、以前から低迷を続けている繊維機械に加え、最近では建設機械分野の加工業では大きな売上の悪化、そしてコストダウン要求が増えてきている。とりわけコマツ関連の企業は大きな落ち込みを見せている。その中でも小型の建機についてはまだ受注はあるが、中・大型の建機は極めて厳しい状況である。
機械金属、機械器具の製造		大きな変動はないものの、先行き見通しが厳しくなりそうな事業所もある。	



	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	一般機器	繊維機械製造業	組合員の繊維機械向け部品加工は、前年平均比マイナス28.7%、前月比26.6%、平成19年平均比マイナス42.2%であった。今月は稼働日が少なかったことから、仕事量及び操業時間が大幅に減少した模様である。フィラメント系では中国及び国内で案件成約があったものの、継続的な基調ではない。スパン関連はインドが相変わらず堅調であり、一極化の好調市場であることから、競合他社との受注合戦が熾烈となっているが、受注コストの良好な案件に集中し、販促を推進しているとのことである。中国も、繊維製品の高級化を目指し、各機業が品質重視の戦略を進める傾向にあることから、ローカル織機から日本製・欧州製の設備投資に目を向ける顧客が徐々に増加してきているという。生産台数はピークの7割程度であるが、団塊世代の従業員が退職し、操業としてはそこそこの度合いであるとのことである。組合員企業の操業は、発注価格には厳しさがあるものの、中位安定レベルが継続している。一方、工作機械事業関連向け部品加工は、前年同月比マイナス13.6%、前月比マイナス8.6%、平成19年平均比マイナス7.5%となった。スマホ関連は相変わらず低調であるが、ローカルスマホがやや盛り返しつつあることから、案件が出始めている。但し、実発注にはまだまだ時間がかかる模様である。自動車関連は、海外向けの案件が大幅に後ずれしており、先行きに不安が出てきているようである。国内のものづくり補助金設備投資と北米が比較的堅調である。工作機械の5月受注が大幅に減退、自動車の販売・生産も大幅減とリスク要因が背景として出始めている、市場環境はいささか懸念される様相になってきている。取引先操業、組合員企業の操業もやや落ち着きを見せてきている。
		機械工作钣金加工	5月の工作機械売上の前月比は104.8%、内需、外需共に1月からの推移はほぼ横ばいとなっている。組合、機械加工などの現場でも売上ベースで確かに落ちた感じはしない。但し、昨年は数カ月先までの受注が確保若しくは予定できていたが、最近になり受注状況は直前にならないと確保若しくは予定できなくなっている。その点からも今後の売上が若干落ちていくのではないかと感じを受ける。
		機械器具及び其の他 金属製品の製造	売上高は前月比・前年同月から横這いとなっている。業績状況は前月から横這いとなっている。売上高は前月比悪くはないが、採算性は前月比から良くなっている。月によって変動がある。電気機械では、溶接用ロボットが海外向け(中国)向けが減少している。液晶が全般的に前月の生産が下降気味になっている。チェーン部門は、四輪、二輪用と産業機械用チェーン・コンベヤと大型のコンベヤチェーンは減少している。コンベヤセットは順調であり、全般的に受注は安定である。繊維機械はオートワインダーの生産は前月より増加している。業績については前年同期を維持している。
		機械金属、機械器具の製造	売上・収益共にやや低調に推移している。好調であった工作機械関連は通常状態に、繊維機械関連はやや低調に、建設機械関連は低調に推移している。
	その他の製造業	漆器製造業 (能登方面)	売上・収益共に力強さが薄れてきている。消費動向は北陸新幹線開業から1年が経ち、入込等は一服感があり、今後の対策・対応が求められている。
		プラスチック製品 製造業	5月は稼働日数が少ないために売上も顧客の稼働に影響されるため、受注は減少気味であったが、その分連休明けないし連休前の受注は若干増える傾向にあった。本年はその観点からすると、増加する傾向は見られず、全体に消費に陰りが見られる。観光関連の業種は比較的好調のように感じるが、製造業、建設業は依然として低迷しているようである。観光に関連するバスの製造メーカーは、受注が長期にわたって好調であるため元気が良い。求人動向も、観光関係、サービス業に多くなっているようで、人件費は増加の傾向にある。
非 製 造 業	卸売業	事務機・事務用品卸売業	毎年のことだが、新年度(新学期)が終わり、売上に一服感の出る季節が来た。売上高・収益状況は前年比微減であった。
		水産物卸売業	対前年比94.8%と買い上げが下がった。原因は鮮魚の入荷量が下がったことと、小売りの反応が鈍く、消費が上がっていない。全般的に個人消費が落ち込んでいる。
		一般機械器具卸売業	住宅市場の回復には今一歩であり、非住宅市場も昨年に比べ低調である。特に民間需要に一服感が出ている。それに伴い、売上、収益共に前年を下回っている。消費動向について、エアコンの動きが昨年より早く出ている。春が短く、いきなり蒸し暑い日が続くなど、天候の影響が買替意欲を刺激しているようである。
		各種商品卸売業	繊維品について、毎年恒例の展示販売会を各社において実施している。和装品は昨年並みの売上を維持するも、アパレル品については大幅な減少となった。全般的にアパレル品は不振な様子である。
	小売業	燃料小売業	例年、GWは販売量が増加傾向であったが、新幹線効果が逆反となり、ガソリン販売量は減少傾向となった。原油価格が上昇傾向にある中で、仕入価格は上昇、業転価格の不安定から、販売価格に仕入上昇分を転嫁できない状況は続いており、収益面では厳しい状況が続いている。消費動向について、ガソリンの上昇に対する消費者の反応は、今のところは大きなものではない。但し、省エネカー、電気自動車への関心は高く、その影響は今後大きなものになると思われる。GWに当地では新幹線効果の逆反となり、ガソリン販売量の増加には繋がらなかった。依然として、仕入価格上昇分を販売単価に転嫁できない状況が継続している。省エネカー、電気自動車の販売量は増加傾向にあり、長期的なガソリン車離れに対抗する、先行き不安も否めない。但し、給油販売だけでなく、車自体の品質維持に対する、サービスの提供を行うSSも増加傾向にあり、各社の営業手腕が問われる傾向にあると思われる。
		機械器具小売業	平成28年5月度、金額伸びは115%であった。カラーテレビ90%と台数は前年を下回るも、大型テレビの売上が好調で、金額はほぼ前年並みとなった。白物家電は冷蔵庫110%、洗濯機110%、ルームエアコン150%と回復し、全体の伸びに寄与している。長らく低迷していたカラーテレビで大型を中心に動きが出てきた。また、夏の合展を早めに5月に実施したメーカーもあり、前年を上回る伸びとなり、収益の改善に繋がった。本年8月1日からNHKが8K・4Kの試験電波放送が決まった。リオ五輪・パラリンピックの実況放送が主体だが、今後のカラーテレビの需要の伸びが期待できる。また、本年夏は暑くなるとの予想から、昨年不振だったルームエアコンを始め、白物家電の需要増も期待できる。
		男子服小売業 婦人・子供服小売業	天候がはっきりせず、中旬以降に至ってようやく気温が上昇し始めた。夏模様となりはしたものの、春物の在庫処分に苦慮し、初夏物が出遅れて勢いが弱かった(前年比96.0%)。ゴールデンウィークの延長で、母の日セールが今一結びつかなかった。
		鮮魚小売業	売上は減少している。それと合わせて収益も落ちている。市場の入荷が少なく、その結果売上と収益が減少した。消費動向について、例年、連休時は、消費者の消費が減少しており、その後の引き締めにより消費が落ちる。業界の状況は、5月に入り、市場への入荷が減少し、景況感も前年より弱さが出てきた。観光需要も落ちてきている。足元の経済が底堅いものから、落ちてきている状況である。
		他に分類されないその他の 小売業	新幹線の乗客減と同様に観光客はGWが過ぎて少なくなった。当然売上は10%減である。個人消費の動向は変わらない。買う人は買って行く。消費増税の先送りは業界にとって良かった。
		百貨店・総合スーパー	売上昨年対比計99.7%、ファッション87.8%、服飾・貴金属102.7%、生活雑貨100.0%、食品98.5%、飲食110.4%、サービス107.1%、客数97.8%であった。業種によって、売上昨年対比にバラツキが多く、特にファッションは継続的に苦戦している状況である。消費動向に大きな変化は感じられなかった。業界の状況は、昨年とほぼ横這い状態であった。良くも悪くもないため、根本的な原因が分からない状況である。
	商店街	花・植木小売業	母の日イベントは震災の影響かどうか、盛り上がり欠け、小売店では期待外れに終わった。消費動向について、天候不順に災害と、先を考えると不利な条件ばかりで困っている。業界の状況は、今年も昨年並みの売上があった。しかし、一昨年から比べると格段に低迷している。仕入価格が年々上がり、金額の割には利益率が伸びずにいる。5月中旬より資材の動きが鈍くなった。
		近江町商店街	大型客船の入港で外国人観光客が多く、特に韓国からの客船は欧州の観光客と違い、店舗内での飲食をしていた。地元客からは歩けないという声が聞かれた。消費動向について、ゴールデンウィークの入出は昨年以上であったが、売上は落ち込んだ店舗が多かった。
		輪島市商店街	昨年対比売上97.5%である。消費動向は厳しい状況が続いている。まもなくできるショッピングセンターの具体的な施設内容が分からないので、皆さん、不安に思っている。

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非 製 造 業	商店街	片町商店街	新幹線が開通したのが昨年3月、1年が経ち、片町商店街では片町きらのオープン、そして香林坊スクエアの開業等もあり、来街者の数こそ概ね維持できているような感じを受ける。ただ、比較的購入単価が下落しているような印象もある。新規店舗は売上を確保できても、既存店舗はなかなか難しい。消費動向について、観光客数や来街者数は現状維持だが、景気は決して良いとは思っていない。業界の状況は、新幹線効果、片町きら効果、香林坊スクエア開業で商店街への来街者は維持していると認識しているが、景気が後退しているのも事実で、盛り上がりにかけるのが現状だと言う認識である。
		豎町商店街	売上は昨年と比較して良い方向であると思われる。但し、アパレルは全国的に難しい局面にあると思う。当商店街としては、お店の業種ミックスを考えていかなければならないと考えている。消費動向について、5月はGWの曜日の良さ、天候の安定と気温が高めであったことで、お客様は多かった。5月後半修学旅行生が多く来街し、平日でも賑わいのある日があった。組合の動向は、空き店舗も順調に減少の方向へ言っているのもこれも良いことである。但し、金沢市の都心軸の補助金を申請しているにもかかわらず、組合に入ることをしないテナントが出てくるなど、組合運営の秩序が乱れてきている。
	サービス業	旅館、ホテル (金沢方面)	売上は昨年並みの施設が多い。稼働率は70~80%と、依然として高い傾向である。したがって、収益についてもかなり改善されていると思われる。消費動向について、飲食店の経営をしている施設は地元客の低迷が響いているとのことである。業界の状況は、昨年に続き順調に売上を確保している。客層は、コンベンションが減少している分、個人客にシフトしている。ただ、人手不足はマンネリ化している。十分なおもてなしに不安がある。
		旅館、ホテル (加賀方面)	単価的、人数的には落ち着いている感じで推移している。消費動向は、ファミリー・小グループ等を中心に動くシーズンに入っており、落ち着いている。業界の状況は、新幹線開業2年目に入り、いよいよ「金沢+近辺観光」に移ってくるのではないかと考えている。併せて、会社関係の需要も動き出してきており、他地域との連携や新しい切り口の提案に転じていく状況となっている。
		旅館、ホテル (能登方面)	温泉地全体の宿泊客数は対前年約94.5%と昨年より減少した。既存旅館(昨年度組合脱退旅館1件除く)の対比でも、96.3%と減少した。旅館は軒並み前年割れの結果となった。新幹線開通から1年が過ぎて、その効果が薄れつつある中、温泉地として新しい誘客策を熟考しているところである。各旅館の売上はまだ判明していないが、温泉地全体の集客数は前年より減少した結果であったことから、売上も下がっているものと思われる。消費動向について、月初めGW後半の宿泊者数は予想以上に低調な結果であった。温泉街を散策する外国人観光客が多い。
		自動車整備業	平成28年5月期の継続検査実績車両数は、登録車で対前年同月比100.5%、軽自動車は101.6%、合計で100.9%であった。2016年前半は低水準(該当車両数の減少)で8月まで続くと思われ、前年4月同様な落ち込みとなるべき原資であったが、意に反した取扱台数となった。要因として思いあたるものがないが、登録車の新車販売プラス8(8.6%)が反映されたのかもしれない。新規登録では中古車新規も含み102.2%であった。新車販売は103.0%でまずまずである。
	建設業	板金・金物工事業	強い風が吹いたせいか、民間、工場棟のリフォーム工事が昨年よりも多く出てきているようで、忙しがっている。しかし、販売価格や人件費は変わっていないので、収益はまずまずである。
		管工事業	5月期の売上高と収益状況は前年同期とほぼ横這い状態であった。年度初めにしては悪くない。組合の状況は、給水装置受付件数は、前年同期より10%の伸び率である。またガス管工事の受付件数は60%の落込みであるが、全体的には昨年並みの状況である。
		一般土木建築工事業	公共事業では、28年度当初に発注された工事案件が5月に来て順次入札、契約時期を迎えている。件数としては、昨年同時期と比較すると同じぐらいである。このことから、売上高・収益状況に関しては、昨年同様と推定される。なお、年間を通じての契約件数としては少ない時期であり、今後の発注動向を注視していきたい。
	運輸業	一般貨物自動車運送業①	新興国経済低迷により、輸出減による出荷量減少から売上も減少となっている。原油価格が前年よりも下落していることにより、収益はほぼ同様であるが、今後の原油価格の上昇が懸念される。
		一般貨物自動車運送業②	5月度の売上高は、前月比マイナス約10%、前年同月比は微増であった。4月・5月と前年とは様相が変わり、全体的に荷動きが低調である。今後、売上増はあまり期待できないように思われる。従って、人件費増や燃料価格の上昇が見込まれ、収益状況は楽観できない様相である。